

教室の窓から

令和 6年
(2024年) 11 月
来須 真紀

もうすぐ冬休み

12月になると世間は「クリスマス」「お正月」と楽しい行事が街に彩をもたらします。学校では、「あと少して長期休み」という期待のほか、「入試だ!調査書だ!」「そろそろ指導要録の文章書かないと」「冬休みの生徒指導どうしよう?」などなど結構慌ただしくなります。特に文章を考えているのに時間のかかる私、「要録どうしよう!」とアワアワしだすのは、いつも冬休みでした。

指導要録ってなあに?

文科省によると

○在学する児童生徒の学習の記録として作成するもの。「学籍に関する記録」と「指導に関する記録」からなる。「指導に関する記録」としては、・行動の記録(小中のみ)・教科・科目の学習の記録→観点別評価(小中のみ)、取得単位数(高校のみ)、評定(小3以上及び中高)・総合的な学習の時間、特別活動の記録・総合所見及び指導上参考となる諸事項などを記載。

○進学の際には、写しを進学先に送付する。指導要録の保存年限は、指導に関する事項は5年。学籍に関する事項は20年。

とあります。この中の総合的な学習の時間、総合所見及び指導上参考となる諸事項、外国語活動の記録の3つは、文章表記で、さらに総合所見及び指導上参考となる諸事項には

- 1 各教科や外国語活動、総合的な学習の時間の学習に関する所見
- 2 特別活動に関する事実及び所見
- 3 行動に関する所見
- 4 児童の特徴・特技、学校内外におけるボランティア活動など社会奉仕、体験活動、表彰を受けた行為や活動、学力について標準化された検査の結果等指導上参考となる諸事項
- 5 児童の成長の状況にかかわる総合的な所見

という項目があります。これを35人分。冬休みには、書けるところから少しずつ…。と焦りだす訳、分かっていただけでしたか?

今回は予想あれこれ

つい先日、こんなことがありました。ある世帯のケースワークで療育手帳をお持ちだったお子様。更新の時期が来たため、更新手続きに…。しかし何と非該当。手帳があるだろうと勝手に予測して、今後のケースワークをしていたけど、もう一度考え直すことに。「まさかまさかの。」と周りは言うてくださいましたが、いろいろなパターンを考えておかなかった自分に猛省。そういえば、学校では、授業を組み立てる際、何パターンも子どもの反応を予想していたなと思い出しました。

学校の予想あれこれ

学校では、いろいろな行事があります。授業以外でも事を計画する際、教員は、予想(心配事)をします。例えば、遠足。

- ・歩ける距離、ルートで、子どもたちは歩けるか？
- ・到着までの時間は適切か？
- ・行った先で子どもたちが楽しめるか。危険はないか。
- ・こどもたちの荷物で必要なものは何か？

と、物理的なこと。

- ・急に雨が降ったらどうするか。屋根のある場所ある？
- ・事故にあったらどうするか。避難する場所ある？
- ・行った先で物を壊したらどうするか。どこに連絡したらいい？
- ・子どもが帰校しなければならなくなったら教員は誰が付きそうか？

と、突発的なこと。

- ・自由にお弁当を食べることにしたら一人で食べる子いないかな？
- ・クラスでレクをやったら、楽しんでもくれるかな？
- ・写真撮ってあげたいけど、保護者は個人情報気にするかな？
- ・先生の配置は足りるかな？
- ・歩く速さはどれくらいだとみんなついてこれるかな？
- ・並んであるく順番はどうするかな？

と、こどもたちや保護者、先生のこと。

などなど、山ほどの予想(心配事)をたてます。

大半の行事での心配事を大まかに分けると

- ・物理的なことの予想(心配事)
- ・突発的なことの予想(心配事)
- ・人(こども、保護者、教職員)の予想(心配事)

と、主に3種類の予想が出てきます。

予想(心配事)から何が生まれる？

では、なんで予想(心配事)をするのでしょうか。予想(心配事)をすることで、予想(心配事)を極力なくすためのプランを立てることができます。予想(心配事)が少なくなるということは、より多くのこどもが行事に参加しやすくなったり楽しめるようになったりする。(と、信じてやっています)全ての予想(心配事)をなくすことはできませんが…。もう少し言うと、すべての心配事をなくすことがいいとは言い切れませんが…。

予想(心配事)しすぎもしなさすぎもいかなものか…。

さて、その予想(心配事)について、話し合いをするのですが、まずは担当になる教員が前年度の計画と前年度の反省を取り入れて今年度のプランをたてます。プランをたてたらその行事のグループで協議をします。協議では、プランに沿って、予想(心配事)を出し合い、プランを修正していきます。ここで大切なのは、予想(心配事)すべてに対してプランを修正するのではないということです。学校教育は、こどもたちの成長を保証す場です。こどもたちの成長をストップしてしまうようなプラン修正はしないということです。つまりきそうな石を全て取り除くようなことは、やらないということです。こどもたちに合った適切な乗り越えることができる石は、あえて取り除かないその見極めができるのが教員としての専門性かな？と思います。

一方で、ケースワークをするときは、あらゆる予想(心配事)を出し合って一つずつ予想(心配事)を消していくという作業をしている気がします(合っているかな?)予想(心配事)は次々に出てくるのでキリがないよ～というのが本音ですが、ケースワーカーをしていると、様々な業種の方と協議するので、「そんな、予想(心配事)があるんだ」と思うことがたくさんあります。この点は、学校にも機会があつたらいいなあと思います。

授業でも予想(心配事)を出すの？

最後に、じゃあ学校の専門である「授業」を作るときでも予想(心配事)を出すの？ということですが、ズバリ「出します」次回は、授業を作っていく上でどんな予想をして、どんなプランをたてていくのかについて、お伝えできたらと思います。